Tokai-EDGE（Tongali）プログラム
（実施期間：平成 29 年度～令和 3 年度）

実施機関
主幹機関－名古屋大学（総括責任者：佐宗 章弘）
協働機関－岐阜大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、三重大学

採択プログラムの概要
東海地区の産学が連携して、自らのアイデアや技術で、世の中に大変革をもたらそうとチャレンジする人材、専門分野における基礎能力と鋭利なマインドセットを基盤として併せ持ち、イノベーションをリードするアクションを起こす人材を育成することを目的とする。

現在まで東海地区産学連携大学コンソーシアムが母体となり実施してきた Tongali スクールを拡大する形で、体系的な教育システムを構築する。コースワークとしては、『モチベーション』『マインドセット、スキルセット』『起業実践』『産学連携・オープンイノベーション』『グローバル展開』を実施し、教育と社会実装の両者が実行できる場を提供し、多くの参加者を募り、起業等やる気にある学生には、しっかり育成・支援ができるプログラムを提供する。

これらの教育プログラムを核とし、サステナブルなプラットフォームとなるベンチャー・エコシステムを、東海地区に構築していく。

（１）評価結果

総合評価	Ⅰ．目標達成度	Ⅱ．取組状況	Ⅲ．計画・改善手法の妥当性	Ⅳ．今後の見通し
S	s	s	s	a

総合評価：【Ｓ】
優れたアントレプレナーシップ教育提供コンソーシアムのロールモデルとなる取組みであり、今後のイノベーション・エコシステムの持続的発展も大いに期待できる。

（２）評価コメント
東海地域の企業・経済界・自治体・大学と強固な連携を図り、起業知識からスキルの修得さらには社会実装に至るまでをシームレスに進める体系的プログラムを構築した。海外プログラム、小中高生や女性等への裾野拡大も含め、それぞれの機関が見事にまとまり数・質ともに東海地域に豊かなアントレプレナーシップ教育を広めたことは高く評価できる。大学経営層の本事業推進に対する姿勢も明確であった。Tongali 事務局による外部への情報発信力も大いに評価したい。

地場の産業力も活用したユニークな取り組みが多く、サポートする企業や協力大学も着実に増えてコンソーシアムの拡大に成功している。Tongali プロジェクトを通じて生まれた学生発ベンチャーの数も多く、外部メディアでの取り上げや J-startup 等で採択されるような成果も生み出している。

主幹機関の存在が大きいのは確かで、他機関も得意分野を光らせて一層の存在感が見えると、なお良い。外部資金については最終年度になって際立つ成果が見られるが、安定的に定着化するための工夫をより一層続けられたい。

Ⅰ．目標達成度

総合的に目標を高く達成している。受講者数（11,075 人）や学生ベンチャー起業数（51 件）を見ても東海モデルのアントレプレナー育成拠点として Tongali プロジェクトが定着化しており、名古屋を中心とした東海地区で起業しやすい環境が創出できている。産業構造変革への端緒となり得る期待が持てる。企業等からの協賛数が目標を大幅に上回る 186 件にのぼっていることも高く評価できる。

留意事項等に丁寧に対応し、事業を着実に進めている。プロジェクトを年々進化させており、小中学生、女性、留学生のプログラム等、中間評価以降に更なる広がりが出ていることも良い。

Ⅱ．取組状況

起業家教育プログラム委員会をほぼ２カ月毎に開催し、細やかな意思疎通が図られている。当初５大学で始まった価値創造プラットフォームが 17 大学まで拡大したことは大きな成果として認められる。一部のプログラムは他の地域にも開かれ、シンポジウム、ビジネスプランコンテスト、ワークショップ等の諸活動を通じて地域社会にも取り組みの浸透が積極的に図られ、評価できる。先進的なロールモデルである小中高生向けプログラムにも、実際に活躍する起業家が参加する形でアントレプレナーシップ教育を実施していることは特筆すべき点である。

プログラムの実施・運営のみならず、「名古屋大学・東海地区大学広域ベンチャーファンド」等を通じて事業の自走化を図っていること、メールマガジンや Slack で積極的に情報発信していること、各大学での起業部といった活動も組み合わせて、コンソーシアム全体で事業を盛り上げようとする意識が明確に伝わってくる。

大学研究者の研究成果の実用化や社会課題解決に資する実践的なプログラムは全体的に発展の余地が残っており、今後の進展に期待したい。海外機関との連携が進んでいるものの、世界トップレベルの価値創造プロセスの実装が定着するか否かは、海外のスタートアップ・エコシステム拠点都市との連携も含め更なる努力が必要になる。

Ⅲ．計画・改善手法の妥当性

外部資金導入は後半に進むにつれ伸びており、最終年に限っては達成率が 140%を超え成果を上げている。地域のステークホルダーに向けた事業紹介の冊子発行、寄付金の多寡による特典設定等、きめ細かく工夫に富んだ方策はユニークと認められる。有識者さらには学生まで幅広い外部からの意見聴取も含めた頻度高い PDCA が行われ、事業は順調に進められた。

本事業の後半は COVID-19 の影響を受け、移動が制限されたもののオンラインを活用して着実に事業の拡大・浸透を図った。

Ⅳ．今後の見通し

日本のモノづくり拠点を代表する東海地区の５つの機関で始まった Tongali プロジェクトは、産業界のバックアップも受けながら順調に広がり裾野拡大に繋げている。大学経営層の事業推進への姿勢と本コンソーシアムの一体感が、スタートアップに取り組む大学の意志を強く示したことも大変価値がある。IPO３社の実績や開放的な連携を考えると、今後さらに活発な活動が見込める。東海地域の特性である製造業中心の産業構造変革の端緒となる、よりスケールの大きい、尖がった起業家が育つ拠点としてその土台作りを期待したい。

地域密着型のコンソーシアムとしての活動経験は、今後参画機関数をさらに増やした拠点都市プラットフォームへと受け継がれる。本コンソーシアムによる経験値と一体的な取り組みが、拠点都市内でも継承され良い影響を与えることを期待する。